

# 組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

2

Number

1

2011年8月25日

## 組紐・組物学会行事（終了分）

2011年3月26日(土)	10:30～16:00	第4回東京ワークショップ 東日本大震災のため中止
2011年4月22日(金)	10:00～16:00	第1回京都ワークショップ「高台の組紐」廣澤浩一
2011年4月23日(土)	10:30～16:00	第1回シンポジウム「伝統と未来を結ぶ組紐」京都工芸繊維大学
2011年5月14日(土)	10:30～16:00	第1回東京ワークショップ「組紐プレート」多田牧子
2011年6月10日(金)	10:00～16:00	第2回京都ワークショップ「異素材で組む」小嶋博子「金剛組24玉」菊川啓志
2011年6月11日(金)	9:00～12:00	公開講座「綾竹台の組紐」多田牧子
2011年7月9日(土)	10:30～11:30	レクチャー「異素材で組む」小嶋博子（代講：多田牧子）
	11:30～16:00	第2回東京ワークショップ「半透明オーガンジーリボンでスカーフを組む」

## 目次 Contents

2	伝統と未来を結ぶ組紐	第1回組紐・組物学会シンポジウム	魚住忠司
5	綾竹台の組紐	京都工芸繊維大学公開講座 組紐・組物学会共催	多田牧子
8	組紐国際会議 2012 マンチェスター		
11	組紐・組物学会行事予定		

## In this issue

Kumihimo bridging over the tradition and the future by Tadashi Uozumi

Ayatake-dai braids by Makiko Tada

2nd International Conference on Braiding, 2012 Manchester

Forthcoming Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society

## 組紐・組物学会ニュースレター

第2巻第1号 2011年8月25日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター 仲井研究室内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX : (075)724-7844 E-mail : inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会の Web でもご覧になれます。 <http://www.kumihimo-society.org>

# 伝統と未来を結ぶ組紐

Tadashi Uozumi  
魚住 忠司



第一回組紐・組物シンポジウムが2011年4月22日、23日に京都工芸繊維大学60周年記念館で開催されました。廣澤浩一氏による「伊賀くみひもの歴史」に関する基調講演の後、「伝統・文化・歴史」分野で6件、「産業および複合材料」分野で3件の一般講演が行われました。会場となった60周年記念館は、斬新な建築デザインと最新の設備を有しており、心地よい環境で活発な議論と情報交換ができました。

会員による発表は講演だけでなく、実物の組紐作品によっても可能です。作品展示会は講演会場の後半分を利用し、23名の会員による111点の作品が展示されました。閉会前に制作者自身による説明会も行われました。その後は講演会場に隣接するセミナー室で懇親会が行われ、会員の親睦を深めました。

## 一般講演

小嶋博子氏は「いろいろな素材への挑戦」と題して、絹以外の素材を用いて組物を制作する際の工夫について説明し、和紙や各種金属ワイヤーを用いた様々な作品を紹介しました。作品展への出展を続ける中で、絹糸以外の素材を用いた組物へのチャレンジが始まりました。和紙の糸を用いた組物は「隙間のできるものを組めないだろうか」と考えて見つけた方法で、糸と糸の間に透間のある軽やかな組物が、ワイヤーを使った組物では、ステンレスや真鍮などを用いた力強い組物が紹介されました。



小嶋氏



錢谷氏

錢谷信子氏は「新しい組み方・平源氏交差組」と題して、組み方を組み合わせることで新しい組み方を見つける方法を紹介しました。基本的な糸の移動方法を組み合わせさせた方法、違う組み方を組み合わせさせた方法などによる新しい組み方を解説しました。平源氏と綾竹の組み合わせで創られた新しい作品の平源氏交差組は、工程が複雑にならないように創作過程で予定を変更し、綾竹台の糸の交差方法で作成しました。新しい組み方が出来た際に、その記録方法をどうするかについて活発に意見が交換されました。本シンポジウムの講演の様に発表をし、予稿集に残すこともその一つとなるでしょう。

中谷彩氏は「源氏組」と題して、組紐の名前に多い「源氏組」の名称に注目し、源氏組の意味と様々な種類の源氏組についての調査活動を報告しました。「源氏」の名前の由来や形状により分類される丸源氏、角源氏、平源氏組について説明しました。さらに平源氏組の組み方を工夫して、連続したV字模様が現れる新しい源氏組「V字源氏組」の作製工程を解説しました。創作品としての視点からだけでなく、その名称や時代背景などを調査から、歴史ある組紐のまた違う視点からの組紐の楽しみ方を教わりました。



中谷氏



丸山氏

丸山文乃氏は「組紐の名称」と題して、同じ組み方でありながら異なった名称がいくつも存在することに着目し、組紐の名称の調査結果を報告しました。書籍や文献などから丸台で組むことのできる組紐に限定して調査し、一覧表にまとめています。組み手によって付けられた名称が異なっても、共通のものがわかれば組紐の作製や初めて接する人々の役に立つであろうとめくりました。呼称の統一も含めたスタンダードの提案は学会の重要な仕事の一つでもあり、今後の進展が期待されます。

菊川啓志氏は「金剛組 24 玉」と題して、図案や配色デザインを考えるとときに有効な展開図の作成方法と、使用方法について報告しました。展開図は、24 色の色糸を使い、最初の糸の配置を記録して、組みあがった組紐を観察しどの糸がどの位置にくるかを書き込んで作成します。この展開図を使うと自分で思う通りの組紐を作製することができ、組紐の構造も理解でき、より一層組紐への楽しみが増すとのことでした。



小村真里氏の研究グループは「古代韓国の組紐」と題して、韓国で出土した 5～6 世紀の甲冑の威糸の組紐について報告しました。発表者らは韓国の博物館で直接 4 畝平組紐を調査し、日本の古墳出土資料と同じ特徴を有する例を確認しています。これらの調査結果は日本の古墳時代の甲冑の組紐を考察する際の重要な資料であり、甲冑研究家の寺本理事からも質問がありました。



京都工芸繊維大学の博士課程の学生として研究中である伊豆蔵誠氏は「織機型広幅組機による多軸組物の作製方法」と題して、多軸組物の制作手法について報告しました。多軸組物は経糸と横糸で構成する織物をベースに、糸が斜めに交差する組み物の技法を加えた組織により形成されています。広幅の多軸組物を作製する織機型広幅組機の機構と作製工程を解説しました。多軸組物はユニークな構造なので今後の研究報告が楽しみです。

橋本優氏ら京都工芸繊維大学の学生グループは「学生フォーミュラと組物 FRP」と題して、第 8 回全日本学生フォーミュラ大会にエントリーされた、フォーミュラスタイルの小型レーシングカーのボディに用いられたカーボン繊維の組物について発表しました。レーシングカーのカーボン繊維の組物はプラスチックで固められることで、組物 FRP となり鉄よりも軽くて強い部品となります。この組物 FRP を用いることで大会の規格をクリアする安全性と、他のチームでは実現できなかったサスペンションの軽量化を実現したことを報告しました。



本シンポジウムの実行委員長でもある上田隆久理事は「高温用漏れ止め部品における編み物技術、組物技術の活用」と題して、配管における弁や継手に用いられる産業用途の組物について紹介しました。高温耐熱性のある繊維を編み物や組物にし、発電プラントの蒸気の流れをコントロールする弁のグランドパッキンや自動車の燃焼ガス排出管のガスケットに用います。流体の温度や腐食性が大きく、使用可能な材料が限定される中で、確実な漏れ止めを実現する苦勞が紹介されました。



懇親会

## 組紐作品展 4月22, 23日

シンポジウム会場では組紐・組物学会作品展も開催されました。廣澤浩一、多田牧子、渡辺一生の各理事が審査員となり、組紐・組物学会学会賞1名、優秀賞2名、学会奨励賞1名が22日に決定され、22日の懇親会の席上で表彰状の授与が行われました。

組紐・組物学会賞は田中スガヨ氏の9ヶ月をかけて組み上げた広幅の唐組でした。また、優秀賞は小嶋博子氏の芸術的な作品と田中晴野氏の松ぼっくりのような籠に、奨励賞は安田栄子氏の薄い広幅のショールに与えられました。



組紐・組物学会学会賞  
田中スガヨ氏



優秀賞  
小嶋博子氏

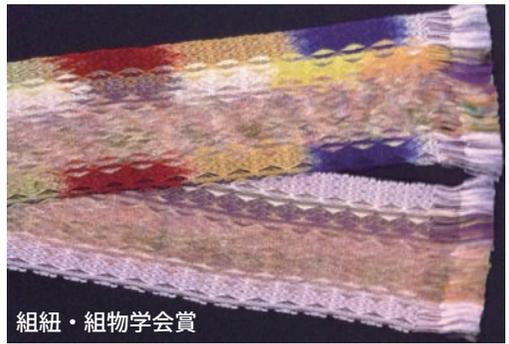


優秀賞  
田中晴野氏



奨励賞  
安田栄子氏

最終日には渡辺理事の司会により、出展者ひとりひとりに、作品についての解説がありました。制作の苦労や新しいアイデアが紹介されるたびに、参加者からの溜息や拍手が絶えませんでした。



組紐・組物学会賞



優秀賞



優秀賞



奨励賞



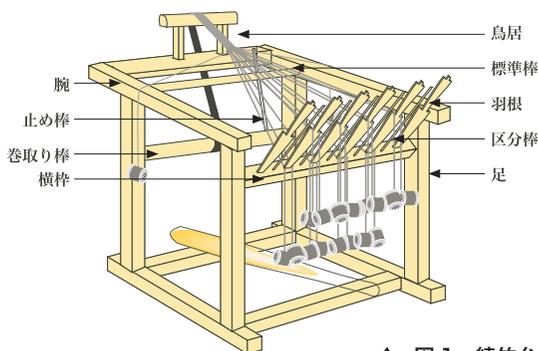
講評



作品解説

# 綾竹台の組紐

Makiko Tada  
多田牧子



▲ 図1 綾竹台

## 綾竹台と綾竹台の組紐

綾竹台は織物にきわめて近い紐を組む、大きさが40～50cm四方程度の道具で、駿河台とも呼ばれている。綾竹台で組むものは経糸と緯糸の区別がはっきりしている。図1に一般的な綾竹台と各部分の名称を示す。前方の正面に高台と同じような小ぶりの鳥居があり、手前の横棒に、矢羽状の糸載せ「羽根」と、糸が隣の糸とからまないようにする「区分棒」が交互に約45度傾いて植えてある。この糸載せに経糸の役目をする重り玉に巻いた組糸を掛ける。糸載せは少なくとも1カ所あり、そこに載せた組糸と横棒に載せた糸を上下させ、その間に緯糸の役目をする糸を毎段通す。この緯糸の役目をする糸を「くくり糸」または耳糸とよぶ。組目は刀（へら）で打込んで組み締める。したがって縦の線が比較的くつきりである組紐である。学術的には「縄連組」と言う。図2に基本的な組み方の駿河組と鎌倉組を示す。

古くは各職人が組台を自分で製作したので、サイズもいろいろである。また羽根の形状も様々な種類がある。片側だけに糸載せがある羽根と両側に糸載せがある羽根がある。また羽根の縦方向の糸載せの数により、2段綾竹、3段綾竹、4段綾竹と区別する。段数が増えたと一般的に紐の厚みが増す。また足踏み式の綾竹台もあり、この場合は出来上がりを巻き取る装置が手前側にある。

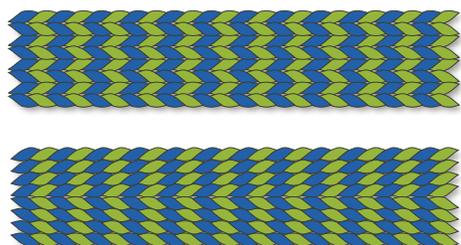
「くくり糸」は通常2玉で左右から1玉ずつ通す。したがって、一応すべての繊維束が斜めに交差していると見なし、組物の分野に分類されている。くくり糸は1玉4～

8本取りで長さは約10メートルである。くくり糸を目立たせたいためには同色の糸を、またデザイン上目立たせたい時は別色を用いる。

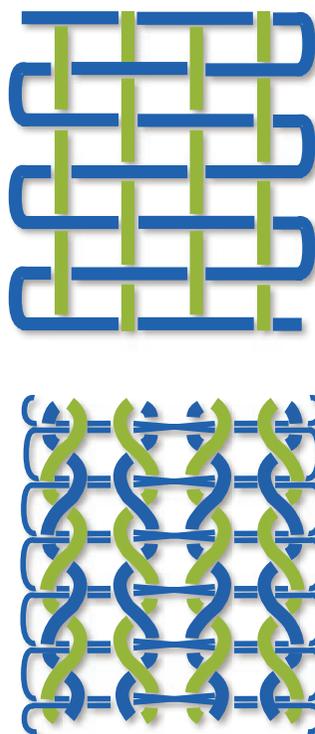
織物と綾竹台の組紐の構造の違いを図3に示す。左が織物で、右が綾竹組の組織構成図である。織物は経糸が上下する間に緯糸が通るが、綾竹は、経糸がおおむね回転し（回転しない場合もある）、その間に緯糸が通る。織物は経糸が上下しているだけであるが、綾竹組の経糸はねじれている。

## 綾竹台の歴史

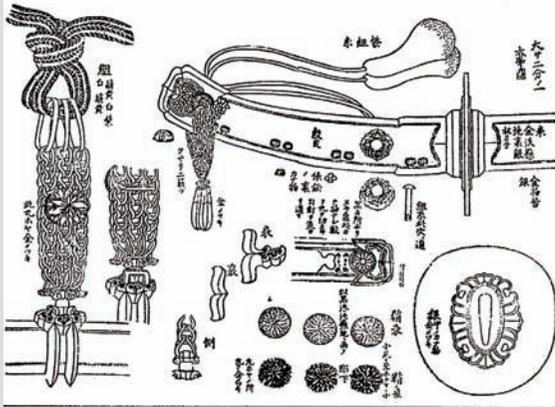
綾竹台はいつごろに考案され用いられたかは判然としていない。「集古十種」には綾竹台の組紐と考えられるも



▲ 図2 駿河組と鎌倉組



▲ 図3 織物と綾竹台の組紐の構造の違い

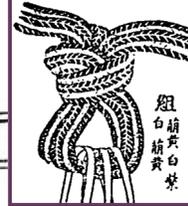


▲ 図4 相模國鎌倉鶴岡八幡宮官蔵太刀金具圖

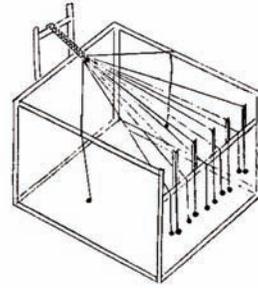
のが描かれ、「止戈枢要」には駿河打の記述があり、その頃には確立されているのがわかる。以下に綾竹台の特記すべき歴史を述べる。

江戸時代に作られた「集古十種」の刀剣の部に、鎌倉時代の太刀の帯取りを駿河組で組んだ図解がある。集古十種とは、1800年刊の古宝物の木版図集で、85巻からなっている。松平定信編。これらの品々の模写は谷文晁(たにぶんちょう)らが行ったとされている。各地に所在する古宝物を碑銘・鐘銘・兵器・銅器・楽器・文房・印章・扁額・肖像・古書画の10種に分け、所在地・寸法などを記し、模写図が描かれている。

綾竹組と考えられる紐は、刀剣の部の中の「相模國鎌倉鶴岡八幡宮官蔵太刀金具圖」(図4)にある。太刀緒と太刀本体を結ぶ足緒が兵庫鎖になっている金沃懸地の太刀の兵庫鎖に帯取として結びつけられている。その拡大図を図5に示す。「組 萌黄 白 紫 白 萌黄」と記されている。



▲ 図5 拡大図



▲ 図7 止戈枢要 駿河打次第

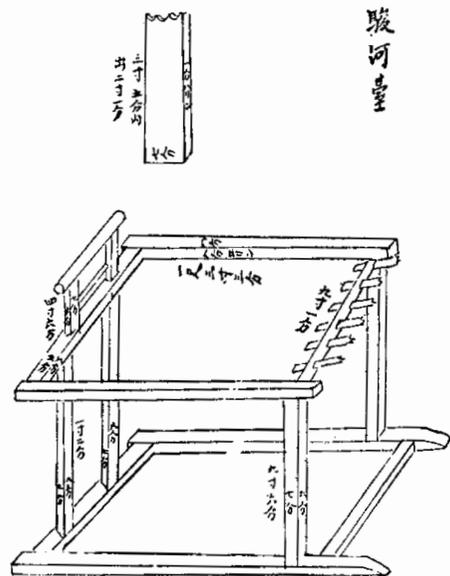
また同じく相模國鎌倉鶴岡八幡宮官蔵太刀で、七宝模様の太刀にも同様の紐が付いているのが描かれている(図6)。

止戈枢要 文化11年(1814)~文政5年(1822)組シュン備考 巻の一 組之部二十一ヶ条の20番目の駿河打次第(図7)には、以下の記述がある。(シュンは糸偏に川)「糸数ハ不定、打ち方ハ上段ノ糸ヲ下段へ下ゲ、下段ノ糸ヲ上段へ上ゲ仕廻テ、両脇ノ糸ヲ、上段、下段ノ糸ノ間ヲ、左ノ糸ヲ右へ、右ノ糸ヲ左へハリ、又、始ノ如ク打ナリ。」また、「組シュン備考 巻の一 糸寸尺並組打台図」の十一ヶ条に「糸組台寸法図」が載っている(図8)。

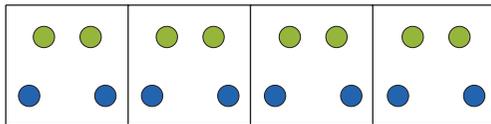
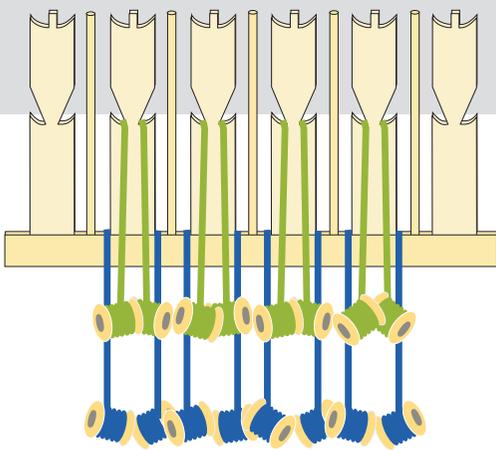
大正時代、東京には大勢の綾竹屋があり、牛込・小石川で量産していたとのことである。



▲ 図6 相模國鎌倉鶴岡八幡宮官蔵 七宝模様の太刀



▲ 図8 止戈枢要 糸組台寸法図



▲ 図9 組図：羽根と重り玉の位置

大正末昭和初期が、最も高級な綾竹台の組紐ができた時期とされている。神奈川県茅ヶ崎の中澤金太郎が足踏式のもの进行考案し、綾竹大和など高級な綾竹組紐が製作されたとのことである。通常の綾竹台は手前から刀(へら)で打って前方に巻き取るが、足踏み式は前方から手前に向かって足踏みのへらで打込み、手前に組んだものを巻き取る。別玉入り、大和目入り、2枚綾竹、綾竹平原氏などが作られたとのこと、中澤・吉澤喜代司・今井如竜が茅ヶ崎・平塚に工房を設立、このような高級な綾竹組紐を製造していたとのことである。

### 綾竹台の組紐の特徴

綾竹台の組紐の特徴は以下の通りである。

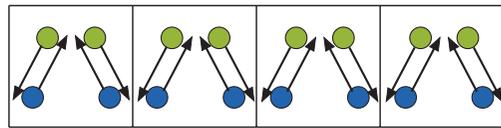
伸縮性に欠ける。撚りの面白さがあり、組にツヤが出る。比較的薄いものが組める。三分組などに適している。

### 綾竹台で組む場合の注意点

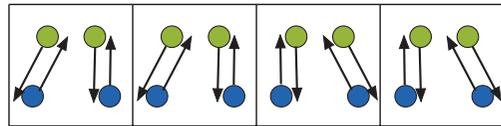
- ・組口から重り玉までの糸の長さはすべて同じにする。
  - ・刀(へら)で打つ場所は、自分の手の長さで相談する。
- 刀(へら)で打つ場所、つまり組口は打ち終わった時の刀が、水平に止まるように、かつ自分の打ち易い場所に設定する。
- ・撚りを均等にかけること。撚りは中心にかかっている重り玉からかける。
  - ・くくり糸はたるませない。
  - ・幅を均等に組む。幅をチェックする分差しをしておくとう便利である。

### 綾竹台の組紐の基本的な組み方

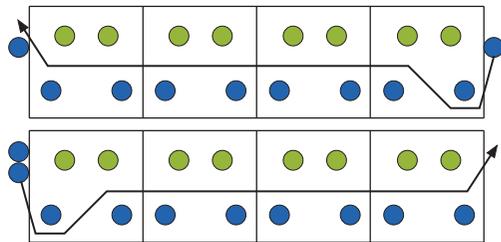
羽根と重り玉の位置をあきらかにするための簡単な組図を図9示す。羽根の枚数だけマスを横につなげる。丸



▲ 図10 駿河手取り



▲ 図11 鎌倉手取り



▲ 図12 くくり糸の通し方

印が糸を置く場所である。

基本的な組み方「駿河手取り」を図10に、鎌倉手取りを図11に示す。逆駿河手取り、逆鎌倉手取りはそれぞれその逆である。一般的なくくり糸の通し方を図12に示す。

### 綾竹台の組紐の種類

駿河組、鎌倉組、綾竹組、竹節組、紅梅組、梨地組、浮杉組、矢羽根組、双び鎌倉、綾竹亀甲、綾鎌倉、綾せせらぎ、山路組、綾双葉、飛駿河、綾菱組、小うねり、節駿河、浮山形、綾小桜、綾亀甲、綾櫻、鎧組、よろけ駿河、田毎、綾笹波、四枚駿河、綾鹿の子、駿河鹿の子、綾松垣、四枚併駿河、平大和、両面大和、綾栞組、若竹組、綾竹組、武田組、遠州組、小桜組など。

### 参考文献

- 集古十種、松平定信編「古宝物の木版図集」85巻、1800年刊。  
大関増業、「止戈枢要」、芭蕉の館所蔵、1826頃  
菅沼晃二郎・山木薫・太田藤三郎、「くみひも」、民俗文化研究会、1969。  
山岡一晴、「伝統の組紐」、主婦の友社、1976。  
山木薫、「くみひもの研究」、総合秋学出版、1978。  
菅沼晃二郎、「京くみひも」、全京都組紐連合会、1978。  
多田牧子・酒井愛子、「絵を見てわかるくみひもⅢ」、日本ヴォーグ社、1980。  
多田牧子・酒井愛子、「組ひも・綾竹台上級教本」、テキスト、1982。



## 組紐国際会議 2012 Manchester

第2回の組紐国際会議が、いよいよ来年8月19日～25日にマンチェスターで開催の運びとなり、そのプログラムの詳細が発表されました。

マンチェスターはかつて産業革命の中心地であり、織物工業で発展した英国第2の都市です。そのため市内には古い建築物や運河と共に新しいビルが混在し、大学や芸術、デザインなどで新たな飛躍を遂げつつある、魅力溢れる場所です。今回の会議の特徴は、ワークショップ、基調講演、早朝講演、晩餐会、ショップ（初日夜）などの他、特に会議中日の1日を近郊のシルク博物館への見学ツアーに当てていること、ロンドンオリンピックの直後であり、早めに英国に入ればオリンピック観戦も可能である点です。本学会でも、参加者が多い場合は、団体のツアーも検討します。

### 会場

#### Manton Conference Centre

Manchester Metropolitan University  
Geoffrey Manton Building  
Rosamond Street West,  
Manchester, M15 6LL UK



Cathedral Gardens にある新しいタイプの博物館 Urbis (左)



会場ビル内のホール吹抜け



■ 宿舎

**Cambridge Hall**

North 41 Cavendish  
Street Manchester M15 6TT  
South 62 Cavendish  
Street Manchester M15 6UU

会場まで徒歩 5 分の学生寮で、個室  
です。会期中の料金は朝食付き 1 日  
28 ポンド。会議に参加しない同伴  
者も 1 日 28 ポンド。台所、トイレ  
とシャワー、洗濯機は共同で、各室  
にインターネット接続有り。(無線  
LAN も使える模様)



個室



台所



洗濯室

■ ワークショップ

主催者の英国 Braid Society は元来、組紐だけでなく、細い紐状のテキスタイル全般  
を対象にしており、ワークショップの内容にもそれが反映されています。各ワーク  
ショップの詳細は翻訳中で、学会ホームページに後日掲載します。

2 日間クラス	(月曜日~火曜日)	
(A)	ループ組紐	Joy Boutrup, Masako Kinoshita
(B)	中国の組紐刺繍	Jacqui Carey
(C)	ペルーの投石紐	Rodrick Owen
(D)	変った形の高台の組紐	Jennie Parry
(E)	Ply-Split Braiding	Barbara Walker
月曜日 1 日クラス		
(F)	バルト諸国の細い帯のパターン研究	Anne Dixon
(G)	16 世紀のボビンレース・ブレイド	Gil Dye
(H)	ビーズによる組紐ネックレス	Adrienne Gaskell
(I)	基本的カード織の「引っかけ技法」	Anne Dyer
火曜日 1 日クラス		
(J)	多重筒状の組紐ネックレスを作る	Anne Dixon
(K)	3 本撚りの Ply-Split のスカーフ	Julie Hedges
(L)	ワイヤーを用いた組紐 (1)	Giovanna Imperia
(M)	ひも織機による縁飾り	Robyn Spady
2 日間クラス	(木曜日~金曜日)	
(N)	ループ操作で作る二重組紐入門	Ingrid Crickmore
(O)	スプラング	Carol James
(P)	新しい Ply-Split 紐	Errol Pires Nelson
(Q)	唐組	Makiko Tada
(R)	アンデスの筒状織物	Laverne Waddington
木曜日 1 日クラス		
(S)	綾書き：組紐のデザイン	Carol Franklin
(T)	磁石留めのビーズ織物	Adrienne Gaskell
(U)	Pick-up Bands, Using a Rigid Heddle with a Short Pattern Slot Modification	Elizabeth Kolb
(V)	大学構内見学	MMU スタッフ
金曜日 1 日クラス		
(W)	組紐で表現する方法	Lyn Christiansen
(X)	3 本撚りの Ply-Split のバッグ	Julie Hedges
(Y)	ワイヤーを用いた組紐 (2)	Giovanna Imperia
(Z)	Quillwork bands on a bow loom	Elizabeth Kolb

■講演

- 月曜日 Carol James「北米における組紐サッシュ」
- 火曜日 Stacey Harvey-Brown「研究と発想のためのノースウェスト・アーカイブ」
- 木曜日 Gil Dye「縁飾りはボビンレースを生んだか？」
- 木曜日 Mari Omura「古代中国と韓国の組紐」（仮題）
- 金曜日 Trish Goodfield「作家のための営業入門」（仮題）

■マックルズフィールド・シルク博物館見学ツアー

会場からバスで1時間のマックルズフィールドにある博物館で3棟の建物から成り、19世紀ヴィクトリア時代の絹織物工場が保存されています。この中のParadise Millは1981年に営業運転を終了し、現在は平日12:15～14:45の間だけ、ガイドの付いた見学ができます。



Macclesfield Silk Museum Heritage Centre



Pattern maker



Paradise Mill

■会議晩餐会

8月23日 19:30～ 大学内のPennine Restaurant



■参加費：445ポンド

参加費に含まれるものは、日曜日のレセプション、ワークショップと昼食、見学ツアー費、晩餐会費、会議資料集で、含まれないものは宿泊費、夕食、水曜日の昼食、ワークショップの材料費。組紐・組物学会で集金し、一括して支払う予定です。(団体割引交渉中)

■予定

- 2011年9月15日：参加・ワークショップ申込受付開始、予約金50ポンド支払い(キャンセル時返金なし) 組紐・組物学会で一括して申込む予定です。
- 2011年12月31日：ワークショップ受講科目決定通知
- 2012年4月30日：残りの金額支払い期限
- 2012年8月19日：会議開催、受付開始



動力織機

## 作品展示会 10月3、4日

本年4月に行われたシンポジウムでは23名の方の111点の作品が展示されましたが、次の作品展示の機会がありますので、お知らせ致します。

渡敬株式会社が毎年10月に開催する、全国の呉服店や商社・百貨店のバイヤー等を対象にした帯締めを中心とした和装小物の展示会の中に、会員のための展示コーナーを設けて頂けるということです。

それぞれの展示作品には作者のお名前も掲示されます。

■申込み締切日：2011年9月20日（火）

■提出締切日：2011年9月26日（月）必着  
8月26日のワークショップの際に持参してください。作品にはお名前を書いた名札又は布きれを付けて下さい。できれば、コメントも書き添えて下さい。

■開催日：2011年10月3日、4日

■場所：ビル葆光2階 中京区御池通室町 西南角  
8月26日に作品が間に合わない方は、開催日までに渡敬株式会社（ご担当河村様）にお送りください。  
〒604-8118 京都市中京区堺町通三条下ル道祐町 148  
TEL：075-221-1708



2006年の参考展示

## ワークショップ 京都

■第3回ワークショップ&レクチャー

8月26日 ワークショップ 10:00～16:00 多田牧子「アンデスの平組紐、検定対応（丸台・綾竹台）」

8月27日 レクチャー 9:00～12:10 多田牧子  
検定対応レクチャー

■第4回ワークショップ（講師が変更になりました）

10月28,29日 小村真理、春日弘子、角浦節子  
「クテ打基礎技法」（表題未定）

■第5回ワークショップ&レクチャー&検定試験

12月9日 10:00～16:00 多田牧子「検定直前ワークショップ」

12月10日 9:00～12:00 多田牧子「検定直前レク

チャー」

12月3日 13:00～16:00 組紐検定 筆記試験

12月4日 9:00～12:00または13:00～16:00

組紐検定 実技試験

■第6回ワークショップ

2月10日 10:00～16:00 多田牧子「簡易高台を作って組む」

2月11日 9:00～12:10 多田牧子「簡易唐組台を作って組む」

## ワークショップ 東京

ワークショップが主で随時レクチャーをする予定です。

■第3回ワークショップ&レクチャー

9月3日 レクチャー：菊川啓志（多田牧子代講）「金剛組24玉」

ワークショップ：多田牧子「組フェルト」

■第4回ワークショップ&レクチャー

11月12日 レクチャー：講師未定「クテ打組紐・入門」

ワークショップ：講師未定「クテ打組紐・入門」

■第5回ワークショップ&レクチャー

1月14日または21日

レクチャー：亀井三枝子・相原日出子「絲の旅人展より」

ワークショップ：亀井三枝子・相原日出子「ボードで組む唐組」

■第6回ワークショップ&レクチャー

3月17日または24日

レクチャー：多田牧子「アンデスの組紐」

ワークショップ：多田牧子「アンデスの組紐」

## 第2回組紐検定

組紐・組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会にて2010年度より設けられた検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はなく、またどの級からも受験することができます。

2011年度は3・4・5級試験のみ行います。試験は京都で行い、各級とも筆記と実技の試験が行われます。

■期日

12月10日 13:00～16:00 組紐検定 筆記試験

12月11日 9:00～12:00または13:00～16:00

組紐検定 実技試験

■申込み切 2011年10月31日（月曜日）当日消印有効

■受験料 7350円（材料費込）

■ 受験料振込先 みずほ銀行出町支店 普通  
1146170 組紐・組物学会

■ 試験会場 京都工芸繊維大学総合研究棟(予定)

■ お申込・お問合せ 下記までお願いします。

606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町  
京都工芸繊維大学 仲井研究室 組紐・組物学会 検  
定試験係 <inoda@kit.ac.jp>

検定基準となる各級の技術到達度は以下の通りです。

■ 5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■ 4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的技能と知識があるか。

■ 3級：クテ打初級、綾竹台初級。

組物について専門的技能と知識を持ち、

丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

■ 2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的技能と知識を持ち、指導者の補佐  
ができるか。

■ 1級：クテ打上級、高台2枚物の綾書ができる。  
唐組台の実技。

組物について高度な専門的技能と知識を持ち指導する  
実力があるか。

クテ打検定試験範囲

■ 3級：「秘伝糸組」「真野家伝故實糸組手附」から  
復元された手操作技法(基礎技法) 現存指操作技法(3  
基本組紐)

2010年10月、2011年2月の講習会分

■ 2級：「秘伝糸組」「真野家伝故實糸組手附」から  
復元された手操作技法(基礎技法) から少しはみ出し  
た基礎技法(鎌倉時代の遺品に用いられている技法)

2012年の講習分

■ 1級：「糸組圖」の手操作技法(平組紐技法) 2を  
基にする1枚組紐の組成技法(中世綾織組織1枚組紐  
の組成技法)(平組紐技法)

2012年の講習分



組紐・組物学会  
The Kumihimo Society

#### 役員

##### ■ 会長

多田牧子：組紐研究家

##### ■ 副会長

仲井朝美：京都工芸繊維大学

##### ■ 理事

上田隆久：日本ピラー(株)

魚住忠司：村田機械(株)

大谷章夫：(独)宇宙航空研究開発機構

小嶋博子：組紐研究家

木下雅子：クテ打組紐技法研究会々長

倉谷泰成：(株)カドコーポレーション

國分成哲：(株)コクブンリミテッド

品川雅明：JX日鉱日石エネルギー(株)

多田眞作：(株)テキスト

寺本 靖：(有)寺本文化財工芸社

廣澤浩一：三重県組紐協同組合顧問

圓井 良：圓井繊維機械(株)

渡辺一生：渡敬(株)

#### 事務局

猪田宮子：京都工芸繊維大学

### 組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター

仲井研究室内

〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7844

E-mail: inoda@kit.ac.jp

<http://www.kumihimo-society.org>

ご入会、ワークショップ、組紐検定の

お申し込みはこちらをお願いします。

組紐・組物学会ニュースレター

2巻1号(年2回発行)

